

令和5年度第2回 青森市障がい者自立支援協議会 議事要旨

日時 令和5年8月18日(金) 10:00～12:00

場所 青森市総合福祉センター2階 ふれあいの館 大会議室

出席者 (委員) 中村委員、田中委員、常田委員、佐藤委員、粕谷委員、平野委員、
中野委員、對馬委員、藤川委員、狭間委員、野呂委員、阿保委員、
谷川委員(13名)

(欠席) 高橋委員、長谷川委員、加藤委員、西脇委員、高杉委員、船水委員、
小山田委員(7名)

(事務局) 障がい者支援課 竹谷課長、山口主幹、赤平主幹、斎藤主幹、渡邊主幹、竹内
主査、佐藤主事(7名)

(委託相談支援事業所) 医療法人三良会 指定相談支援事業所青森中央 西村管理者、
社会福祉法人愛心福祉会やましろ 藤本氏、社会福祉法人虹 地域活動支援
センター八甲 萱森管理者、医療法人芙蓉会 地域活動支援センターすばる
飯塚管理者、社会福祉法人青森市社会福祉協議会浪岡支部指定相談支援
事業所ほたる 常田管理者(5名)

1 開会

2 課長挨拶

3 報告事項

(1) 青森市障がい者相談支援事業活動報告

<青森市障がい者相談支援事業を受託する事業者から、「配布資料 令和5年度第2回青森市
障がい者自立支援協議会資料」により報告>

4 各部会での協議及び各部会からの活動報告

※ 各部会での協議後、協議内容を部会リーダー等から報告

【みんなの未来部会】

(委員) 今回の部会では、福祉の現場の人材不足について話し合いを行った。

当事者の視点からは、障がいについて知っていただく機会が少ない、周知不足というところもあるため、まず自分たちのことを知ってもらうことが大事なのではないかという話があった。

また、福祉の専門職として福祉人材不足を解消するために求めることは、福祉教育は高齢分野での福祉教育が多いため小中高と障がい分野の福祉教育も取り組んでいければ良いのではないかと。大学生は、実習生などに関わる機会もあるが、その下の年代については、あまり関わる機会がないため、小中高校生を対象とした出前講座等をこの部会で行いながら福祉教育、人材育成を若

い年代から行っていければ良いのではないかという意見が出された。

加えて、障害福祉を知ってもらうための機会を増やしたり、障がいの現場で働いているスタッフについても、障がいの基本的な支援について共通認識をもって働くことで、継続して働いていける環境が整い人材の確保もされるのではないかという意見があった。

【就労支援部会】

(委員) 令和6年から法改正により、就労選択支援事業が創設される。具体的には、働きたいと思っている方がどのレベルで働けるか、現在働く先でいうと一般企業、就労継続A型事業所、B型事業所という選択肢が出てくるが、その行き先を選択するために作業する能力の調査を選択支援事業で計っていきこうというサービスが新たに始まる。

実施自体は、令和7年12月に実施される予定だが、令和7年の4月にずれこむ可能性もあるとの話が出ている。そういった中で、調査を行う人材がまだ育っていない。その仕組みがまだ出来上がっていない中で、令和6年に法律が改正となり、それを理解しながら一年間でどこまでできるのかということが非常に疑義の残る部分である。制度だけが形が化して中身のないうものになってしまうのではないかという不安もある。それをどのようにして防ぐかということは今うちから知っている情報を共有し勉強会を開いていければ良いのではないかと思うため、就労支援部会が主導してこの勉強会を開いていければ少しでも底上げになるのではないかという議論が行われた。

【障がい児部会】

(委員) 令和5年6月8日に、障がい児部会の活動として、「令和5年度第1回青森圏域医療的ケア児支援体制協議の場」を開催した。

事務局から、「報告事項」として、令和5年5月末時点での医療的ケア児の統計情報について報告があったのち、今年度の取組について、障がい者支援課、子育て支援課、あおもり親子はぐくみプラザ、教育委員会事務局学務課、指導課から説明があった。その後行われた「調査報告及び意見交換」では、あおもり親子はぐくみプラザから8名の医療的ケア児の調査報告があり、出席委員と事務局との意見交換が行われた。

障がい児部会においては、引き続き、医療的ケア児の現状把握を進めるとともに、協議の場を通じて、活発な意見交換を行っていきたいと考えている。

5 閉会(12:00)